		祝井谷私設消防組
		大澤津私設消防組
		飯塚私設消防組
		柳迫私設消防組
		南鄉東部私設消防組
		柳井谷私設消防組
松山村		
松山村私設消防組		
松山村青年團		
志布志町		
公設志布志消防組		
夏井消防組		
志布志町青年團		
西志布志町		
公設宇都鼻消防組		
西志布志村私設消防組		
新橋私設消防組		
泰野私設消防組		
尾之見私設消防組消防組		
西志布志青年團		
縣立志布志中學校		
縣立志布志高等女學校		
志布志町在鄉軍人分會		
志布志町青年學校		
松山村青年學校		
押切小組合		
西志布志村在鄉軍人分會		

月野村		
月野村私設消防組		
月野村青年團		
鹿屋町		
公設鹿屋消防組		枝元婦人會
田崎私設消防組		鹿屋町國防婦人會
浦私設消防組		鹿屋町愛國婦人會
公設高須消防組		祓川中方限婦人會
笠野原私設消防組		祓川上方限婦人會
川東私設消防組		鹿屋町處女會
新村私設消防組		
祓川私設消防組		
川西私設消防組		
鄉ノ原私設消防組		
鹿屋町青年團		
鹿屋町通會		
縣立鹿屋農學校		
鹿屋高等女學校		
祓川小原小組合		
田崎尋常高等小學校		
鹿屋町在鄉軍人分會		
鹿屋町安全組合		
鹿屋町青年學校		
縣立鹿屋中學校		
祓川尋常高等小學校		
鹿屋尋常高等小學校		
高須水難救護組合		
月野村在鄉軍人分會		
花岡村		
古江公設消防組		
花岡公設消防組		
花岡村青年團		
花岡村女子青年團		
花岡村青年學校		
花岡村在鄉軍人分會		

新城村	公設新城消防組	新城村青年團
		新城村女子青年團
垂水町	公設垂水消防組第一部	垂水町青年團
	〃 第二部	
	〃 第三部	
	〃 第四部	
牛根村	公設牛根消防組	牛根村青年團
百引村	公設百引消防組	百引村青年團
		百引村女子青年團
高隈村	公設高隈消防組	高隈村青年團

新城村青年學校		
新城村壯年奉仕隊		
濱平水難救護會		
柊原水難救護會		
垂水町青年學校		
牛根村青年學校		
百引青年學校		
高隈青年學校		

串良町	公設串良消防組	串良町青年團
	公設下小原消妨組	串良町女子青年團
	公設上小原消防組	
	公設細山田消防組	
	青年義勇團私設消防組	
東串良町	公設柏原消防組	東串良町青年團
	公設豐榮消防組	東串良町女子青年團
	公設池之原消防組	
	公設新川西消防組	
	柏原國柱團私設消防組	
	豐榮自警團私設消防組	
內之浦町	公設內之浦消防組	內之浦町青年團
	岸良私設消防組	內之浦町女子青年團
	岸良私設林野消防組	
高山町	公設高山町消防組第一部	高山町青年團

串良町婦人會		
東串良町婦人會		
內之浦町婦人會		
內之浦町國防婦人會		
高山町婦人會		

內之浦尋常高等小學校		
內之浦營林署岸良官行伐所		
內之浦町在鄉軍人分會		
內之浦町衞生組合		
高山町衞生組合		

後田私設消防組
下門民警團私設消防組
大脇赤誠團私設消防組
下住義警團私設消防組
宮下私設消防組
公設波見消防組
高山公設消防組第二部
野崎私設消防組
林野私設消防組
前田私設消防組
永和私設消防組

姶良村

姶良村青年團

上名私設消防組
下名私設消防組
町區私設消防組
公設姶良消防組

姶良村青年學校
吾平尋常高等小學校
姶良村衞生組合

姶良村婦人會

大姶良村

大姶良村青年團

公設大姶良消防組
公設南消防組
公設野里田消防組

大姶良村青年學校
南尋常高等小學校
野里尋常高等小學校

野里婦人會
大姶良村婦人會

大根占町

大根占町青年團神川支團

上之濱私設消防組
大根占町消防組第一部
仝　第二部
仝　第三部
宿利原私設消防團

大根占町青年學校
大根占町衞生組合

旋婦人會
上之濱南町婦人會
上之濱北町婦人會
新道婦人會
朝日町婦人會
鹽屋上婦人會
鹽屋下婦人會
瀨戶山婦人會
神川中婦人會
神川下婦人會
鳥濱婦人會
神川上婦人會

田代村

旋消防組
川原消防組

田代村衞生組合

佐多村

佐多村消防組
大泊私設消防組
郡私設消防組

伊座敷青年團
大泊青年團
郡校區青年團

伊座敷濱婦人會
大泊婦人會

野方村

公設野方消防組

大崎町

公設大崎消防組
公設菱田消防組
公設持留消防組
三文字私設消防組
横内私設消防組

揖宿郡

山川町消防組第一部
山川町成川消防組
山川町德光消防組
山川町濱兒ケ水消防組
指宿町十二町消防組
指宿町中央消防組
指宿町消防組
指宿町條六私設消防組
指宿町尾ガ瀬私設消防組
指宿町南部消防團
山川町防組第二部

野方村青年團

大崎町青年團
大崎町女子青年團

山川町青年學校
指宿町青年學校
今和泉村青年學校
喜入村青年學校
頴娃村青年學校

野方村在鄉軍人分會
野方村青年學校

大崎町在鄉軍人分會
持留小組合

指宿青年團
頴娃村青年團
山川町青年團
喜入村青年團

町村ニ屬セザル團体

〃歩兵第四十五聯隊
鹿兒島縣醫師會
肝屬郡醫師會
囎唹郡醫師會

鹿兒島縣藥劑師會
縣立鹿兒島病院
大日本赤十字社鹿兒島支部
垂水警察署管內衞生聯合會

鹿屋警察署管內衞生聯合會
柏原警察署管內衞生聯合會
大根占警察署管內衞生聯合會
志布志警察管內衞生研究會

肝屬郡牛馬畜產組合
肝屬郡家畜保險組合
鹿兒島縣畜產組合聯合會
鹿兒島縣水產會
鹿兒島縣漁業組合聯合會

姶良郡

福山町公設消防組
清水村公設消防環
東國分村公設消防組
敷根村公設消防組
敷根村下井私設消防組
國分町公設消防組
日當山村公設消防組
加治木町公設消防組

溝邊村公設消防組
帖村佐公設消防組
山田村公設消防組
蒲生町公設消防組
重富村公設消防組
清水村姫城私設消防組
國分町野口私設消防組
國分町上小川私設消防組

霧島村公設消防組第一部
〃　第二部
〃　第三部
日當山村嘉例川公設消防組
隼人消防組
第一部
第二部
第三部
第四部

五部
六部
七部
福山町小廻公設消防組
旋
南國
大廻
國分町川原私設消防組

薩摩郡

川內町消防組
樋脇村市比野消防組

樋帖村塔ノ原消防組
組入來村消防組

上東鄉村消防組

出水郡							
阿久根公設消防組	—	—	—	—	—	—	—
川邊郡							
枕崎水產學校	—	—	—	—	—	—	—
鹿兒島市							
鹿兒島市安全組合消防班聯合會	鹿兒島市常公設防組	—	—	—	—	—	—
	鹿兒島市常設消防組	—	—	—	—	—	—

第七章　災害餘錄

第一節　美談哀話

高山町に於ける風水害美談、悲話

留守居を守る十四少年の沈着と奇智から弟姉三人を救ふ

前古未曾有の肝屬地方大氾濫に際し、奇蹟といふか、天祐といふか、僅か十四才の少年の奇智によつて、兄弟三人が無事九死一生を得た聞く者をして喝采の嵐を送らす沈着な美談がある。高山町新富神之市有馬イソ子さんの四男高等科一年（十四才）清安君は十四日母イソ子さんが所要の爲出張不在中弟妹三人留守居してゐたが、十四日來の土砂降りに氾濫する高山川は遂ひに十五日午前六時頃から自宅の床上にグン〳〵浸水し疊はブク〳〵と浮き上り出したので、清安君は泣き叫ぶ弟妹を庭の柿の木に登らせ、しばらくなりゆきを見て居たが馬小屋が流れだしたので、このまゝでは所詮助からぬと思つて、ふと前方を見ると下流から大木や材木が、ドン〳〵押流されて來るのに、ふと、考へたのが筏遊びであつた清安君は沈着にも弟妹を安全な場所に避難せしむべく、着てゐた着物をズタ〳〵に裂きこれを繩にし流木を利用して筏を作り弟妹三人を乘せ巧にあやつりながら、約三町離れた、昌林寺墓地の椋の木にとまり、無事なるを得た、その椋の木の下には清安君のお祖父さんの墓石がある。あの激流に四名を乘せた小さな筏が止つたのも、地下のお祖父さんの目に見へぬ力ではなからうか。

連絡をとる決死の渡河

十四日、夕刻より十五日早朝にかけて突如、大隅地方を襲つた大暴風雨は全く前古未曾有で、唯さへ氾濫し勝ちな高山川は忽ち物凄い增水を來し、河岸をあふれて一面の海と化した。

例年にも增して稔りつゝあつた沃土十里の田野は收穫を待たずして荒廢に歸せしめた。そして二百も尊い生靈を奪ひ、幾百の人家を或は流し、或は潰しして、一夜のうちに能ふ限りの暴威を振つて通り魔の樣に過ぎて行つた。

其の高山川を東から西へ架けられた高山橋といふ鐵筋コンクリートの橋がある。當町の中心地たる新富區と前田區をつなぎ交通に運輸に住還繁き動脈であるが、さしも頑強な此の橋も、其の夜物の見事にもぎ取られ 殘骸さへも止めなかつた。勿論他の鐵梁は全部之に先立つて流失して了つたのである。

明けて十六日午前十時、高山川は、昨日の名殘を留めて、まだ濁水は兩岸を充して無氣味に逆卷きながら流れて居た。沿岸の町民は今や交通杜絶した兩岸に集つて互に川越に當時の模樣を問答し合つたがそれも靄々たる水音に消され勝ちで東西の消息は容として通じなかつたのである。

それで如何にもしてこの兩岸の連絡をとる事は何はさて置き緊急な問題で、あつたのであるが、何しろ此の水勢の物凄さ誰も腕こまねいて、濁水を傍觀してゐるのみであつた。その時此の至難な連絡の使命を果さうと、自ら進み出た者があつた。それは石川正樹青年（廿八才）であつた。彼はす早く着物を拔いて、稍々上流より用意してあつた二百米程の荒繩を手に。さんぶと濁流に身を躍らせた。兩岸の觀衆はわつとばかり聲援を送つた。片手に繩、片手に拔手を切つて濁流と戰ひながら泳いで行つた。何しろまだ衰へぬ矢の樣な水勢に、或は流され、或は濁流物に惱まされながら力泳に力泳を續けた。觀衆は唯はら〳〵しながら手に汗を握つてその成巧を祈つた。ところが見よ彼は見事に成巧して、終に東岸にその姿をあらはした。兩岸の幾百とも知れぬ觀衆は、河面もゆらげとばかりにどつと歡喜の聲を揚げて、彼の行爲を讃歎したかくて新富區と前田區をつなぐ命の繩は張られた。やがて間もなくそれは鐵の丈夫なワイヤーに切り替へられ兩岸にぴんと力強く張られたのである。急製の筏は救援の人々を滿載してワイヤーを傳つて頻繁に行つては歸りした。此の石川正樹青年の決死の渡河によつて始めて東西の連絡は結ばれたのである。

滅私奉公の四字に生きる人々

十月十五日嗚呼何たる運命か。高山町は未曾有の大水害に遭ひ貴き人命さへ何百人も失つた。天の試練と云ふにはあまりにも悲慘なるこの水害嗚呼天を恨むより外はない。

高山校の校歌の一節にもある沃土十里のあの廣々とした土地も一面泥田と化したのである。之を傳へ聞いた郡内は勿論縣下を擧げて『水害地を救へ』の警鐘を打ち鳴らされ時農繁期と云へども縣民の一致團結は固く結ばれ。滅私奉公、隣保扶助の精神あらはれトラックに何台となく青年團、消防組、婦人會等々の救援隊絶間なく溫い手を水害地の人々にさしのべたのである。

泥土の中に膝まで泥にまみれたゞ滅私奉公の四字に働くカーキ色の青年團、又は消防服勇ましき姿でスコップを持つて働く消防手、或はかよわい女乍らも水害地の人の一番大事な食物握飯を立ちながら何百となく作る白いエプロン姿の婦人會の人々、嗚呼唯水害地の人々は神樣の御助けとばかり感謝し涙ぐんだのであります。今述べましたのは外部的の方ですが更に之を內部的に見ました時は高山町長河野直吉氏は實弟の死も省みられず、三州自動車の停留場內に設けられた假事

務所に晝夜頑張つて救護、面接に疲勞も見せず當られたのは側で見る目も唯々御氣毒で御座いました。

其他役場吏員、區長、小組合長、自宅の水害を省みられず晝夜兼行で公のために御盡力なさつたのであります。

次に高山校長中村伊助氏も自宅床上浸水で手ひどく水害を蒙むられたのでしたが、まだ水が全部ひけぬ中老体を杖一本で奉安殿に行き御眞影の御安否を確められ自ら先頭にたち書類帳簿を安全に片付けられたのであります。

其後毎日校長以下、全職員土方服で自宅の水害の後始末はかよわい奥さんや子供等に委せられ滅私奉公の四字に生きんと朝早くから夜遅くまで泥まみれになつて吾が學園を一日も早く立派な學園にしたいといふ眞心から一心に働かれ又疲勞した体をもつて町の色々の調査等に盡力されたのであります。

嗚呼此度の水害は吾人をして 種々の教訓を垂れしめた。私を滅して公のために奉する。その精神、何と崇高にして嚴然たるものか。そこには幾多の哀話も生れたであらう。傳へ聞く、始良郡某消防手、娘の重態なるを省みず、救援に行き萬事任務を終へて歸宅した時は既に娘はあの世の人となつてゐたと、あゝ是れ滅私奉公の龜鑑となすか。

鮑

十一月にはいつて、秋の日射が、崩れた堤防を露に照らしてゐた午後だつた。この日、高山川の水はあの怒濤のやうな出水もけろりと忘れたやうに、從前よりも減水したと思はれるほど流れてゐた。嚴又なコンクリートの橋も無殘に打ちしひがれて、コンクリートの破片が水中に頭を出してゐるのみである。急造の假橋が木の香新しいのも傷々しい。

福山源二氏の家はこの高山橋より數町上流の屈曲した地點にあつた。私は道路の眞中に押し出され、傾いた家屋の破れをくぐり三里位も離れた國見山麓、嶽から流れて來た巨木が、あら〳〵しく木皮を磨り剝がれて、横たわつてゐるを踏み越えながら、やうやくその地點に出た。そこには夥しい流木の中に眞新しいバラックがある。聲をかけたが人氣がない。覗いて見ると、寒さうな板敷に菰包みがころがりいびつになつて自轉車が置かれ、土間に焚殘した灰が溜つてゐる。これこそ福島氏が、まだ發見されない妻、息子、娘の死體が今日は上るか、明日は出てくるかと、空しい期待をかけ乍ら、事件前一ヶ月近くもの間、張番してゐる悲しみの家である。

思ひ返すと、十月十五日の眞夜中の事である。ふと眼が覺めた。昨夜からの雨が一段と激しい。福島氏はこの分では大水が出るぞと思つた。然し例年庭まで水が來た事がないので、格別氣にも止めず、何時か又眠つてしまつた。それから何時間經た時であらうか。体が搖れるので眼を覺ました。見ると、ブク〳〵〳〵と疊が水を噴いてゐる。

『水だ！キヨツ！ヒロ子！孝志ツ！水だぞつ！』

廿一才になる孝志君は尋常四年のヒロ子さんを帶で背中に括り付けた。親子四人は猿のやうに天井に上つた。

ゴウツと凄い音がする。バリ〳〵ドンと氣味惡い響き、ザアツと雨がたゝきつける。

四人は室に增水する水嵩を眺めた。一秒二秒……刻々ととして水は上へ迫る。障子がはづれる。雨戸がパタリと倒れる。單司がひつくり返る。電燈がパツと消える。

『駄目だ。屋根へ上れ！』

渾身の力に依つて板が突き破られた。四人は雨に打たれ乍ら屋根に出てほつとする間もなく、ドンと家が振動したかと思ふとズル〳〵と家がすべつた巨大な流木が家に突き當つたのである。高山川は矢のやうに濁流が怒り狂つてゐた。本流の眞只中に押し出された家がどうしてたまらう。福島氏は妻、息子、娘の名を呼び乍ら、勵まして一枚の枝切にとり縋ら

せた。間もなく四人は高山橋の欄干にとりついた。夜はしら〳〵としてゐた聲を限りに助けを呼んだ。物凄い急流のために身を動かす事が出來ない。四人は橋を傳つて陸へ上らうと身をもがいた。途端ドウとコンクリートの橋が水に沈んだ。アッと思ふまもなく渦卷。四人の姿は水に呑まれてしまつた。幾間か流された福島氏は全力を盡して身を躍らして浮上つた。そこには天祐か、木の枝がさし出てゐる。無意識にそれにとり縋つた。

午前六時前後僅々廿分足らずの內に、幾多の悲劇は起つたのである。朝が來て、しらみに陽が照りそうた時高山町民の眼に映つた姿、道路橋架は破壞され住家は流失倒壞を己むなくされ、土堤はくづれて、約二百の行衞不明があるといふ噂さの立つたこの日、自然の偉力の恐しさを今更乍ら感ぜざるを得なかつたのである。

福島氏は危くも一身はとりとめたが、一ケ月近くも經た今日まで、日に數百名の縣內各方面の消防員の死体捜査が續けられたにも不拘、妻、子二人の死体は發見されないのだ。それで元の家跡にバラックを建て、晝間は捜査にあるき廻り、夜は妻方の父宅に身を寄せて日を暮らしてゐるといふ。

ところが今日の事、子供が學校に破れかゝつた鞄を持つて來た。

『これ尾の下の田圃で拾つたの。ヒロちやんのぢやない』

を開くと、學習の用意してゐたらしく本やノートが入れてあり、數日前學校から買つた鞄讀本自學書が可憐にも入れてあり、『福島ヒロ子』とはつきり名前が讀まれる。担任の中原先生が眞先に眼を掩ふてしまつた。職員室はしばし暗然と悲しみに包まれてゐた。

死体が上らなければ、この鞄が或は遺骨代りになるか分らない。すぐこれはお父さんに屆けなければならない。私は中原先生と連れ立つて、鞄を持參して、福島氏のバラックの前に立つたのである。福島氏は今日もこのバラックを出て、下流附近をふら〳〵と歩き廻り乍ら、心の中で妻子の名を呼んでゐるに違ひないこの鞄を見られたらどんなに嘆かれるだらう。どんなに悲しみを新しくして泣かれることだらう。私は殺風景なバラックの中に這入つて、包みを開いた。まだしつとりと濕れて、破れかゝつた。この鞄……持主のヒロ子ちやんの手を離れてから一ケ月近くの間、田圃の泥に埋れかゝつて、秋の弱い陽に照らされてゐた事だらう。

師を失ふ

水魔は一瞬にして數多の尊き人命を奪ひ去つて終つた。慘禍の跡に限りない哀歌！　嗚呼、　人の世にそれは余りにも悲しき極みである。

此處百の兒童は一夜にして、慈愛溢ふるゝ師の君を失ひ逝く秋風と共にひし〳〵迫る哀調符はその小さい胸に傷めてゐるのである。

昭和十三年十月十四日川上尋常高等小學校訓導假園國義氏は、受持兒童高等科一、二年を引率し、高山校に於ける柿元三等兵曹の町葬に參列し、午後より降り出した篠突く雨に打たれ乍ら、兒童と共に濡鼠となり、宵暗迫る三里近い川上街道を歸校したのであつた。濡れた兒童を勞はり、細々注意等與へ、又樂しき明日の教室を約する時、あゝ神ならぬ身の誰かそれが永遠に愛する兒童への別離の辭とならうことを知り得やう。兒童も亦それが師の君の殘す兒童愛の最後の餞の言葉になるを豫知し得やう。

七ケ月間、師弟の情愈々深み、魂心の日一日と相觸れ今は離れ難く、ひたすらに、伸びゆく兒童の力を作り、兒童は又

心から己が全魂を師に預け、唯一途その導かるゝところ、深く信じ服してゐたのだつた。

氏は同夜九時頃下宿へ歸宅、雨中を歸した兒童達の安否を案じ乍らも疲れた軀をそのまゝ床に運んだ。

翌未明唯ならぬ物音に飛び起きた時は、早くも庭は濁流狂奔し、前の一棟は早くも押し倒されて終つた。家人の救助を求め泣き叫く聲、大岩石の轉落する音、續いて起る地響、打ち叩く豪雨、折しも後方の山崩れの爲、大洪水は岩石と立木を根こそぎし、唯阿修羅の狂亂するが如き嵐の中に家人と共に飛び出さんとせし瞬間、家は一たまりもなく倒潰し、あはれ悲運にも氏は材木の下敷となり、他の家人三名と共に壓死して終つたのである。

其の日の夕方七時、漸やく岩石を除き、砂を堀り、發見せし時、さながら生ける如き面影を見ては只涙のみ、唯一人一言發する者もなかつた。

その日の中一人、二人と傳へ聞きし兒童達の如何にか悲嘆の情禁じ難きものがあつたであらう。……昨夜お別れした時の有樣がまざ〳〵と殘りどうしても先生の死は信ぜられなかつたが、それより十余日を過ぎ授業が開始されても懷かしい先生の姿は見えず、遂に再び先生の御教を受けることは出來ないと今は觀念しつゝも、あの教壇にあの机に先生の姿がちらつきどうすることも出來ない。……としみ〴〵語る氏の教子達二人寄り、三人集ひては、今は亡き師の君を語り慕ふ心情に職員一同はもとより全兒童の胸中深く感なきを得ないのである。

かうした教子達の思慕を今は靜かに眠る氏の靈は、必ずや來たり受けるであらう。そして尚地下より吾が愛する教子の成長を永遠に、あゝ！　永遠に見守つてゐることであらう。

受取る人なき軍事郵便

千馬萬馬、曠野山岳を馳せ、暴支膺懲に日夜余念なき中にも、遠く異鄕の露營の枕邊に、すだく虫の音に、誰か故里の香を否み得やう。そは人情の常であり、花も實もある吾が大和男子の一死報告の誓ひであり、帝國の明日を、後人に托するの辭であり、然して銃後國民に導する決別である。

陣中時に閑を得て、故里の老ひし父母に、一家を托せし妻に、愛兒に——莞爾と走らせるペン、明日は又彈丸飛雨の中に飛込む益良夫の、そうした軍事郵便を、今は受けるべき家族員一人もなきは何んたる運命の惡戲であらう。

高田町川上官行斫伐所原田一雄氏は事變勃發するや妻子と父母を殘し勇躍出征し、中北支に奮戰しつゝあるのであるが今回の大洪水の爲、氏の遺家族五名は悼ましくも呪はしき、水魔の犧牲となつて終つた。

未だ死体さへ揚らず行方不明の所に、はからずも屆けられた氏の軍事郵便は開く人をして唯暗涙に咽ばしめてゐる「出征以來お蔭樣で今日まで微傷だに負はず働いてゐる（中畧）愈々向寒の折、体を大事にし、雄一（氏の受兒）及び老父母の孝養を賴む云々」嗚呼！今はそれに應ふべき人なきを知るよしもない氏、明日をも分らぬ身に、父母を慰め、妻を勵まし、愛兒の成長を切々祈る氏の心情！今は何處にか靜かに眠るらん五人の家族は、唯一人戰地に殘る氏を守り、ひたすらに皇室の御稱と押し進めるであらう。

（因に彼の親類は陛下に捧げし身に、私事を傳へ徒らに意氣消沈せしむることなきを期し、事の次第は憲兵分隊に通知せりと）

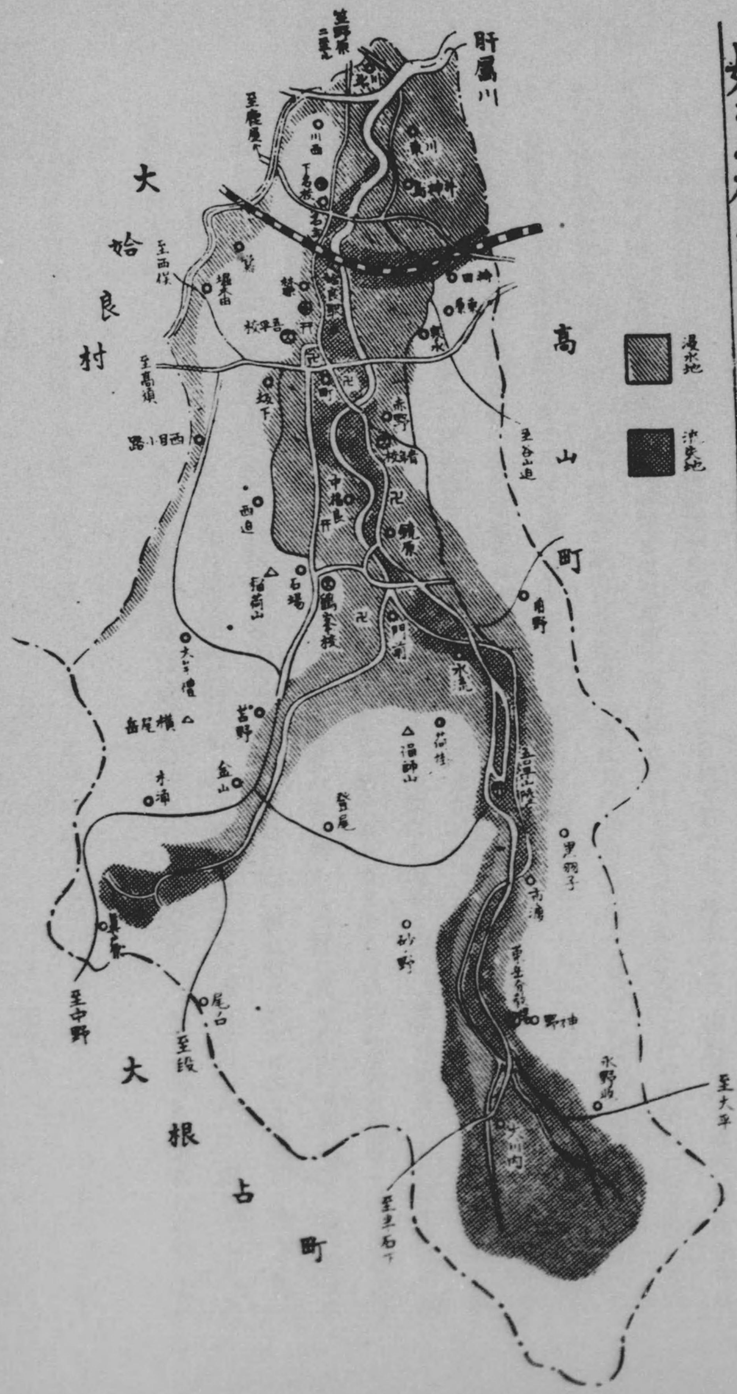
姶良村に於ける被害及美談哀話

十月十四日夕刻來の雨は夜に入りて大暴風雨となり、翌朝まで數時間のに四二〇粍に達した。去る七月三日神戸地方の水害でも一日三二六粍に過ぎないのであるから、如何に大豪雨であつたかゞ解る。

夜は既に明けてゐた。土間に下駄が浮ぶよと見る間に水は疊を浸し、まご〳〵してゐる間に一丈乃至三丈に達した、此の間三十分を出ない。上流からの水は丁度石段の如き狀を呈して增えて來た。品物を直す暇も、着物夜具を天井に上げる間もない、どうして攀ぢ上つたか、氣が付いて見ると天井の上だつたのである。大抵の人は目が覺めた時既に疊は浸つてゐた。慌てゝ外に出た者は皆矢の樣な激流に凌はれた。轟々たる濁流の響き、メリ〳〵と家屋の壞れる音、悲鳴を擧げつゝ流れ行く人の姿、どちらを見ても四邊は逆巻く水ばかり、心臟は早鐘と鳴り、涙も出ない當時の氣持。

かうして村民の凡そ三分の二は水に弄され、約百名の尊い人命は喪れた。上流の溪谷は云はずもがな、幅數秆の下流域まで低地は悉く泥の海となつた譯である。

水魔跳梁の慘跡は想像の外で、流失或は全壞せる家屋約一千棟、埋沒流失せる田畑凡そ八百町歩、道路は破壞されて橋梁は殆ど無く、電信電話は杜絶し、食ふに食なく着るに衣なき罹災民は地に溢れ、呪はれたる溺死体は諸所に横たはつてゐる。近代文化の發達を誇る鐵筋コンクリートの大橋梁までグワラ〳〵に碎けて抽流されたのであるから、其の他の物がたまる筈が無い。三かえもある大木が苦も無く根こそぎにされ、河水は意の儘に流路を變更して二里も川下まで家を運去つたものがある。



被害の最も甚だしかつたのは姶良町で安い借屋や腰の弱い古屋は全部流壊されて街路の眞中や附近の田圃に坐り込み、木材は一面に散亂して數間隔つた所にも通行は出來ない。町を縦に貫く凡そ五町の幹線道路が通じたのが五日目で、之と十字をなす大姶良高山間の縣道凡そ五町の間が復舊したのは十數日後であつた。浸水一丈、家財は悉く流失して床上には五寸の泥土が堆積した。殊に鴨戸神社前の如きは汎濫水本流の跡と三軒をならべてゐた約三十戸の家屋が一軒も殘なく流失して後は荒寥たる河原と化し青黒い地盤が露出してゐる。溺死者の九割は此處の人で中には一家五人遭難の家庭もあつたらしい親の屍体等目もあてられない。

次は東岳區であるが、此所は長くも皇祖皇宗不合尊を祭る吾平山陵の靈地がある。森嚴幽邃比無かりし同日前までの域内を偲ぶにつけて荒廢せる今の御模様見るだに涙の種である。行きがけのコンクリート橋はなく、中の島は云はずもがな、自動車停留所の廣場も店も、岸向ひの茶店も悉くが洗ひ流されて砂白き溪谷と化し、過ぐる年長くも　聖上陛下の御足踏ませ給ひし玉砂利の路山なす流木の間にせゝらぎの音がする。幾千年の昔を語る神杉が數本列ぶ影間より、洗ひ出された山肌の巖間に洞窟だけは舊態を存する如く拜せられるのは神威の致す所か。山陵の眞東の山の上に行つた者は驚嘆の眼を瞠らざるを得ない。山陵の方へ流れこむ狹谷が流木に堰かれて以前の田圃の跡に廣さ數町に餘る大水溜が出來てゐるのである。谷底より實に五丈殆んど山の中腹の邊に流木が引つかゝり、濁流に汚れた木の枝が川下の方へ靡いてゐる。若し後半時間も堰が切れなかつたら、恐らく水は山を越えて流れたのであらう。流木に引つかゝつてゐる子供の着物、當時を想像して慄然とした。

東岳は戸數百數十、分教場のある所。溪谷に沿ふ二十町歩の田地中半數が河原と化した。或る部落の如きは殆ど全滅で

ある。全然復舊の見込がない爲、行李を背負うて移住する人の姿がいくらも見受けられる。近くに在る中岳は九割に當る山崩れで、山肌が夕陽を受けて黄色く光つてゐる。此の地の死人は三重も川下にも出た。

水が出るのも早かつたが、減るのも早かつた。浸水した柱時計が六時二十八分で止つてゐたから、此の頃最項であつたらうが、正午頃にはもう道路面、田面が出て來た。

姶良町の下方の田の中を一間の高さに横切る長さ一粁の職道線路が殆んど半分減茶々々に切れた爲だらう。

水稻は殆んど全滅で見渡す限りの水田は春の野の如く一面に實が發芽してゐる。溪谷地の田は半分以上河底となり、河條或は堤坊決潰所の田は一所に何反歩、何町歩と表土が洗ひ流され、水の停滯した所は一間以上も泥土が堆んでゐる。家を失ひ、家畜を死なせ、耕地を荒された農民は今後十年は伸び上られまい。

又延長數十萬呎に上る道路用水路等の決潰は損害田地被害額に匹敵する。

個人として家財道具の損夫も亦巨大である。流失物は元より、殘つた物でも着物は一枚數十圓を要する紋服晴衣に皆汚点がつき、洗つても〳〵山から流れて來たアルカリ性土壤は落ちないから、ボロ〳〵になつて破れ、疊等何日干しても乾かぬから結局捨てるより途がない。

所謂九死に一生

吾平小學校長山下芳德氏は出水と共に跳起き、三人の愛兒を督勵して、重要書類の整理に萬全を期してゐたが、時既に床上膝を沒した濁流は、刻々に增水して、見る〳〵下半身を埋めてしまつた。而し沈着な氏は少しも動ぜず、ひたすら兒童の安穩を念じ乍ら一家の處置を策して居たが、其頃になつて愈々吹き募つた暴風は、遂に新築間もない住宅を大きく搖り動かしたのだつた。

はつと氏の腦裡をかすめた黒い影——奉安殿、暴風——早曉來、奉安殿が水に對しては絶對的な安全地域にある事を信じ切つてゐた校長の信念はぐらついた。——この風では——

『お前達、お父さんを離れるな』

外は滔々たる濁流の海である。ともすれば後れ勝な愛兒達を勵し乍ら、敢然として戸を蹴破つた校長の兩眼は、遙かの丘に鎭まります奉安殿にぴつたりと吸ひついてゐた。

『大丈夫だ。行くぞ。』

水深はすでに首を洗ふ泥海を而も急激な主流に向つて泳がうとするのだ。中學三年と女學校の一年生、それに二十才の娘さん。手足纏ひの三人を、互に相擁して進む校長の奮鬪は剛氣不屈飽く迄公職に殉じ得る者のみが成し得る人間力の極致であつた。

家を出て約五十米、愈々急流に差し掛らうとした次の瞬間、此の尊い努力も遂に水泡に歸してしまつた。丁度其の頃、家屋や大木を根こそぎ洗ひ去つて來た激流は、親子四人の生命を窺ふ事に些かの躊躇もしなかつた。見る〳〵濁流に呑まれてしまつた長女の顔が 遙かの下流にやつと浮き上つた頃、氏等三人も又必死になつて流木にしがみ付いてゐたのだつた。『もうこれ迄』と覺念した氏は流れ行く長女に高く手を振つた。——大丈夫だ、頑張れ！ 悲壯な瞬間である。

そしてそれつきりだつた。

今は殘る二人の愛兒と生死を共にすべく縋つた一本の流木。水魔の飜弄は益々惡測を極める、濁水は呑む。身体はしび

れる。刻々に加はる疲勞に大波が躍り掛る。萬事休したのだ、此の上は唯、運を天に任せるのだ。

それから何十米流されたか判らない。

『兒童よ安かれ』遙かに祈りを捧げた。途端、『づしん』と大きな衝撃を感じた。しまつた、思はずはつとした氏の眼前に立並ぶものは、『あゝ樹だ。樹だ。これに取付け』見よその眼前には二、三本の樫の樹がその葉先だけを水に浮べて倒れてゐるではないか。二人の子供をしつかりと之に縋り付かせた氏も愛兒諸共ぐつとその樹に抱き付いた。これで助かるんだ。

見渡せば一眸の大海原である。家が、馬が、牛が、大木が、そして人が、矢の様に流れては又大渦の中に消える。『あゝ助けたい』ぐつと手を握り緊めてはみるが、人力の如何とも成し得ない此の慘狀、思はず瞑福を祈るのみだつた。その時である。氏の五、六米先を浮きつ沈みつして流れ寄る黒いものがあつた。『人だ。よーし』

得意の水練は濁流を押し切つた。片手に襟がみを掴んだ氏が元の位置に縋り付いて見れば中年の婦人である。然も失神してぐつたりとなつてゐるのだ。『しつかりせ』突然大聲にどなるとやつと薄目を開いた。『助かつたぞ、此の樹を離すな。』漸く正氣づいた婦人はかうして一命を完うしたのであるが、この婦人こそ三人の男兒を水禍に奪はれた、西しまさんその人であつたのだ。公職の前には一命を捨て、敢然とその任に就かうとした校長の赤心は神に通じてか、瀕死の危機を幾度か征服して、今又尊い人命までも救助し得たのである。その沈着、そして剛氣、足部に重傷を受け乍らも漸く杖に縋つて、減水後の應急措置に奔走する校長の姿に、今更の様に捧げる村人の奉謝の念は、一入感謝深いものがあつた。『名校長』誰云ふともなく傳へられたこの言葉こそ、氏の『己を空うする』人格の現れではあるまいか。

水害當日の一日間。全く生死不明を傳へられた氏の令嬢も亦、自宅から約一千米の下流に押し流され、漸く立木に縋り付いて、救助されたのであつた。

機智よく命を救ふ

吾平小學校訓導藤峯正文氏は姶良の町端れの赤野部落に下宿してゐたが、同家の主婦はかねてから病弱の上に、出水と聞いて極度に狼狽し、主人は十一才の女兒を抱いて、殆んど成す術を知らない狀態であつた。

屋内を奔流する濁水の中に重要書籍と數枚の疊を整理し終へた氏は直ちに家人の救助に取掛つたのである。

然し時はもう既に遲い。丁度其の時押し寄せた物凄い激流は家を大きく一搖りして家財を次々に奪ひ去つてしまつた。

今はもうすつかりおぢけ付いた家人の叫喚は愈々その極に達した。然し沈着な氏は少しの動ずる色も見せず、靜かに之を制しながらも、すぐに流れ寄る二枚の疊を引寄せた。そして突嗟の機轉で、それに一枚の戸を敷いて急造の筏を造つたのである。

『さあ、これに乘りなさい。』

筏の端を結えた細引の一端をしつかと口に咥へたまゝ、先づ女兒を乘せるが早いか敢然と濁流に乘込んで泳ぎ續けたのである。

多くの人々が自身の處置にさへも窮じ果てゝゐた此の場合、實に當を得た臨急の機智であり、而もあらゆる困憊を押し切つての尊い隣人愛の具現である。

一旦女兒を救出した氏は更に又引返して來た、そして最早殆んど生色を失つてしまつた主婦を辛うじて避難させ終つた

時には、流石に頑健な氏の軀もくた〳〵に疲れ果てゝゐたのである。

平生からの明朗濶達、どんな困難の前にも屈服しない氏の面目、こゝに躍如たるものがある。かくして、村民の氏に對する信頼は秋日と共に益々深まつて行くものも無理からぬ話である。

大根占町神川

消防組の活動

夜半の猛雨中何者か外部より駐在所に急を告ぐるものあり。永山巡査は直に出動、小頭赤石盛吉氏へ警鐘を打たしむ。時に午前五時半。しかるに其の時既に頑強な神川橋は流出して鳥濱方面は交通遮斷され組員參集不能に陷り、皆倉方面又傳令以外には危を告ぐる方法なく直に集合せる神川上中下組員を以て各部署につかしむ。永山巡査桑原組頭等指揮の下に流出家屋及浸水半倒壞家族救出に勤む。最初行衞不明二十餘名を報ぜらる。減水に向くとは言へ、濁流胸に至るところを永山巡査及組員十名決死的に横斷し、海岸及河岸の松林及澱工場地帶を搜査、屋上より救を求むる松岡標村氏の生存を知り、先づ安全地帶に避難せしめ、工場主及女工等の工場屋上に生存し居るを確め、又松林の中に丸山長四郎（當年七七）殆んど假死の狀態にて松の木に抱きつき居るを發見、應急手當の結果、約一時間の後蘇生し、又同氏と少し離れて、流失家屋上の棟木につかまりしまま、約五百米流されて生存し居る德留豊吉氏父祖（八二）を發見救助、愈々行衞不明者は佳家と共に流出の運命に落ちし稅所氏一家五名と決定された。其の上目擊者の言により濁流の中を海中へ流出した事が決定され如何ともする手段なきに至つた。最後は愈々應急對策として、避難救護死体搜査交通及衞生方面の部署につかしむ。中でも通信機關は全部破壞され警察署との連絡さへ思はしく出來ず川を隔てゝ叫ぶのみ。

濁流を横ぎるにも神川の船は一艘も居ず全部流出全く手段なく、とう〳〵對岸鳥濱より、流木波浪の中を危險を冒して舟を廻し、渡河連絡に成功、委細を通知することを得たのは正午であつた。死体搜査は青年團員と同一日割の下に全員三十七名一致團結のもとに連日十六日間、涙ぐましい活動のお陰にもかゝはらず校區殘り三名の死体はとう〳〵發見することが出來なかつた

一本の松に支へられ奇蹟的に助かつた。

老斧着のみ着のまゝ濁水の中から逃げ出し、辛ふじて家族八名危い命を助かつた德留豊吉氏、一家の中で、別棟の隱居に一人寢て居た豊吉氏の老父（八二才）は逃げ後れて流失せる家と共に海の藻屑と消え果てたものと一時は噂されたが、本宅は後型もなく隱居の屋根のみ、海岸の松の木に引かゝつて居る際、減水と共に漸く渡れるやうになつた濁流の中を救助に狂奔中の永山巡査、其の他に發見され、永山巡査が外から聲をかけたところ中から答へる人聲に屋根を破つて、そこから漸く救はれた。

豊吉氏の話によれば、急激な增水に驚いて先づ四名の幼兒を連れ出して、女中に託して安全地帶に避難させ、それから隱居に行つて、耳の聞かぬ老父の寢具を引張つて目を覺させ、早く逃げる樣にと叫んだが、丁度其の時起つた本宅の物凄い音にびつくりして振返つた間に父は雨戸を締めて了つたので、本宅に引返つて見ると、早や屋内を胸部までの水が逆卷いて流れて居り、這入つて居る家がぐら〳〵つと搖れたので、あわてゝ近くの土手に這ひ上り、寒さは寒し流れ行く家を見るに偲びず、子供の避難して居る池田勇太郎氏宅へ行つたとの事である。

尙豊吉氏と前後して斬く水魔の家から逃れ出た妻キクエさんは十二年間の粒々辛苦の商賣に依つてきづき上げたすべて

のものを、みす〳〵捨てゝ家を去るに當り、萬感胸に迫つてナムアミダブツを誦へ乍ら家をよろばひ出たといふ。

一方老父は本宅に押されて、自分の家が動きはじめてから始めて重大事に氣が付き、急ぎ雨戸を開けて見たが、如何ともすることが出來ず、土手の上から見て居た家人其の他も『爺さん、爺さん』と絶叫するのみにて手の下し樣もなく、泥海と化した田甫の中を流れて行つた山、此の爺さんは浮き上る疊と共に天井に上り、五・六町も流される中に梁から下は何もなくなり、上の方丈幸ひ顚覆せずに流れて行つた屋根裏で水も呑まず命を取り止め、其の奇蹟的命拾ひを一同喜んでゐる。

舟の纜（艫綱）て体を括り合せた柳村吉之助一家

神之川の本流と勿ちの中に人家や大木等の轟々と流れる大川と化したので田圃との中にはさまれ、逃ぐるに道なく今にも押し流されんとする家の屋根裏に危く命を助た柳つ村一家は六十の坂をとうに越した吉之助氏の六名は女子供ばかりで、泣きわめく孫達と共に今は之迄と覺悟した吉之助爺さんは、自分達が死んだあと、死体がちり〴〵になつて見つからねば、大阪に行つてゐる子供達が歸つて來て死体發見に心配するだらうし、人樣にも大變な御迷惑を掛けることとを思つて、頸まで來る水の中を泳いで軒場に掛けて置いた艫綱を持つて來て、家族の体をくゝり合せ、いざと云ふ場合には木でも結すび樣と綱の端を持つて構へて居たと云ふ。幾度か家は流され樣としたが間もなく減水、漸く助つた。一家の人達は川と化した田圃の水の中を渡り乍ら『流れ行く家を目のあたり見て居た近所の稅所氏一家の人達の不幸を心から哀れんでさめ〴〵と泣いて居た。』

尙同家の近くに小さな小屋を營んで細い煙を立てゝ居た一人者の丸山長四郎爺さんは、自分の小屋が流される前に逸早く柳村家へ避難して來たが、同家も危いとて、やがて近くの松の大木まで泳いで行つて木に抱き付いて居て一命を助つた。

小根占村に於ける風水害と美談悲話

未曾有の大水害は實に涙なくしては聞たれぬ話の數々を生んだ。小根占の慘害の中心諏訪馬場で拾つた話。

第一話 鳥越常吉（四六）氏と妻ケサキクさんは、濁流に呑まれて、痛ましい死をとげたのである。同氏の家には妻の妹、養母、養子哲夫の五人が同居してゐた。雄川の河水氾濫し諏訪馬場一帶泥海となり、家屋は流失しはじめた。鳥越氏の家も流れ出した。危險と感ずるや健氣なケサキクさんは先づ病弱の夫常吉氏を天上に上げ、ついで養母、妹、幼兒も避難せしめた。家の破壞するに至るや屋根を破り祖母、妹、幼兒を屋根裏に避難せしめた。ついでケサキクさんも逃れんとして、病氣上りで身体不自由の夫を如何にかして避難せしめんと最善の努力をなす中、濁流は天上裏まで浸入した。遂に仕方なく夫と共に天上裏で悲しき死をとげた。此のケサキクさんの行爲こそは夫に殉じた貞節のある話として一般の感嘆するところである。

第二話。 榎木咲子（十四）も當日、祖母と共に悲しい死を遂げた。咲子は今年三月神山小學校の尋常科卒業生で、善行賞を受けた孝行娘であつた。濁流のため家は押し流されてゐた。破壞し盡くされた家の泥土の中から祖母の死体が先づ發見され、同所に咲子の當夜着てゐた着物が脫ぎすてられてあつた。何日立つても咲子さんの死体は發見されなかつた。人々は、脫ぎすてられた着物から、裸になつた咲子を思ひ、最後まで、祖母を守り、濁流と戰ひぬいたであらう孝女の姿を相像した。人々の相像の如く、慘死の日より八日目に裸の死体は發見された。其の姿は如何ともしがたい時になつて、祖母のすゝめるまゝに、死を免れんとして、泳いだであらう姿を見ることが出來た。若し祖母が居なかつたら、助かつたで

あらうと人々は唉子さんの孝心に痛く感激してゐる。

次に古殿部落では山崩れのため、學童二名の痛ましい死がある。島越喜次郎氏の家に避難してゐた尋四の大迫篤と尋一の原口タミ子は家の下敷となつて壓死してゐた。篤君は自分の家が危いと云ひ、父母の止めるのも聞かず、前記の場所に泊りに行き思はぬ災難に遭つたのだ。兩親の悲しみには相像に余りがある。タミ子さんは自分の家の床下に水が來るのを恐れ母と共に島越氏に行つたので、母は負傷しタミ子さんは壓死してしまつた。そして兩人とも自宅は無事であつたので、人々は運命の惡戲に深く同情の涙をよせてゐる。

田代村

長濱柴立兩氏の慘死

十四日の宿直それは長濱先生であつた。彼は夜十時頃使丁二人と共に校内を一巡視し暴風雨を案じつゝ十一時頃床についた。然して五時頃三人共に眼さめしも神ならぬ身の何ぞ知らん宿直室には風も割合にあたらず雨もあまり強くあたらぬ場所にあつたので運命といはんか又床についたのである。

丁度六時頃學校裏が崖崩れしたのだ。その音を聞き人々は學校へと走つた。校舍は倒潰し宿直室は土の下にとなつて居た。その中で人の呻き聲がかすかに聞えた。確にまだ生きて居る集つた人々は倒潰せる校舍の窓を破り或は柱を切りして漸く呻き聲のそばに行く事が出來た。それは使丁槐島久光君であつた。彼は奇蹟と云はんか躰が机の下にはまり唯右手を疊と疊の間にはさまれて居るのみで助かつたのだ早速彼を裁縫室にと運び次に長濱先生へととりかゝつた。然し倒潰せる上に土がかぶつて居て一寸何處あたりか目當がつかず當惑した。然し槐島君の位置より目當をつけ堀りにかかつた。彼は躰の上に布團をかぶりその上に疊二枚かさなり又その上に土がかぶさつて居たのだ丁度槐島君を救助致してより三十分もかかつたらう。早速彼も裁縫室に運び人工呼吸を四時間も續けて見た、その間醫者もよび注射をなしたり湯婆(タンポ)を入れたりあるゆる應急手當をなせしも遂に彼の生命は再びと歸へつては來なかつた。

使丁柴立五男君も長濱先生を堀り出してより約半時間致し堀り出して來た。彼も先生同樣手をつくせしも二度と呼吸をして吳れなかつた。嗚呼　昨日まではあの教室で算術讀方と御教へになつた先生、一時間、一時間と時鐘を打つて時間を報じ吳れしあの柴立君が今日はこんな姿に變りはてるとは誰一人考へた者があつたらうか。

昭和十三年十月十五日午前六時。あの恐るべき天災は我々の學校を倒潰しその上前途有望の尊い青年教師と青年使丁の生命を奪つたのだ。

因に長濱時彥先生は肝屬郡牛根村の人行年二十四才で本年一月田代校に參り在職十ケ月、十月十七日田代校庭にて校葬死体は學校近くの中郡墓地に埋葬してある。

使丁柴立五男氏は行年十七才田代村川原柴立の產、先に南支に於て活躍して戰死せる故陸軍航空兵伍長柴立正氏の村葬のありし日より丁度一ケ月目だつたそうだ。十月十六日川原にて校葬死体は柴立墓地に埋葬してある。

今村日高兩訓導の決死的活動

あの暴風雨山津波は山を崩し田畑を埋め家を流しその上人の生命まで奪つてしまつた。然し浸水家屋四十八軒の大根田部落に幸一名の死傷者も出さず濟みしは、はたして誰の御蔭だらう。そはあの激流中で我が身の危機を忘れて獻身的働きをなした青年訓導今村日高兩訓導その人の御蔭である兩氏は五時半頃二人の兒童の『先生水が水が』と避難し來たりつぐ

るを耳にするや蓑を身にまとひ暴風雨の中に飛び出した。

然して先づ助けをよぶ兒童二人（九才と七才）を一所に背負ひ胸まで來る水の中を渡しつぎに牛を一匹引き出し引き歸へせしに早縣道は增水の爲渡れず人々は樹上より救を求めるのだつた。人々はどうにもこの濁流の中では手のつけ樣もなく唯當惑した。その時兩氏は何處よりか梯子とロープを持ち來り縣道に渡しその上を猿の如く渡り橋（ハシゴ）をかけて吳れた。そこで彼は又一人の兒童を梯子をたどりて救ひ我々がそこで樹上の老母二人を助けたその間に彼は次へ次へと竹竿を渡し或は泳ぎして數人を救助して居た。然して全部助け終つたのは朝の八時頃だつたであらう。ほつとする間もなく學校が例潰致し先生一名と使丁一名の壓死を聞くや彼氏は疲勞の色も見せず學校へと走つて行つた。

彼等に救助された人々は皆若しもう十分もあの時兩氏が來て下さらなかつたら我々は寒さの爲或は死んで居たらうと兩氏の仁俠的行爲を讃美して居た。

訓導暴風雨の中に御眞影を護る

暴風の中を湯谷右田の兩訓導は我れを忘れて縣命に走つた。學校は見るも悲慘と化してゐる。而し奇蹟と云福中校長は出張中なので兩訓導は御眞影奉護のために步つたのである。はんか奉安殿のみは依然としてあつた。兩訓導は先きに駈けつきしきりに奔走せる藤島訓導と共に今にも倒壞しさうである奉安殿の前に進み意を決し三名力を合せ錠前に鍵を入れて引いたがよぢれて居るのか開かぬ。愈々氣はあせる、あはてゝはならぬ氣を沈めよ、おちつけとお互ひに勵まし合ひ漸く錠を開き御眞影を村長室に奉遷申し上げた。

一同はその時安心と感激にたゞ涙の湧き出づるを禁づるを得なかつた。

義捐者芳名錄

（受付順）

住所	芳名	
鹿兒島市	增田德兵衞	
〃	安田清三	
〃	中洲尋常小學校	
〃	藏重文	
〃	有村貞・隆	
〃	鏡原隼人	
〃	岩元達一	
〃	鹿兒島聯隊區司令部	
肝屬郡鹿屋町	伊東藤吉	
〃	荒木組營業所 末廣博邦	
〃	昭和產業株式會社	
〃	仝 鹿屋支店從業員一同	
〃	昭榮一新會	
〃	北元石油店鹿屋出張所	
〃	李基雨	
〃	三州自動車合資會社	
志布志町	日本メソヂスト鹿兒島教會	
福岡縣博多市	（無名）	一寒生
市中央工場內	鹿兒島芭蕉組合	
〃	仝 從業員一同	
伊作町	久保田好純	
鹿兒島市	松井昭緣	
日置郡伊集院尋高校	職員一同	
鹿兒島高等工科學校	拓殖學校 職員生徒一同	
	大阪朝日新聞社	山際啓司
	鹿兒島刑務所職員一同	
福岡縣糸島郡農會	宮原三五郎	
鹿兒島市	敬愛幼稚園	
鹿兒島別院	重永潛	
石川縣	曉島敏	
鹿兒島市會	議員一同	
鹿兒島市	鹿兒島稅務署職員一同	
大阪商船鹿兒島商運組	千葉常雄	
鹿兒島商運組	有馬敬助	

排宿郡	牧聞神社職員一同
薩摩郡	盈進尋高等小學校職員一同
出水郡	野田尋高小學校職員一同
長崎市	朝永久技子
薩摩郡	千合女學校職員一同
姶良郡	吉松村役場、全村農會全村會議員一同
姶良郡	霧島神宮職員一同
出水郡出水町	無名
熊本遞信局海事部	鹿兒島出張所
	無名
鹿兒島郡畜產組合聯合會社長	坂口壯介
鹿兒島縣立伊作高等女校	生徒一同
姶良郡國分町	精華商業學校校友會
姶良郡霧山町	霧山中學校
旭川市	相良淳一
山口縣	常閑寺
東京	公爵島津忠重
東京	濱畑豐次

德島縣	無名
鹿兒島市	鹿兒島地方海軍人事部
〃	山下杢太郎
東京	全英先外一二名
富士丸斯紡績株式會社	大分工場從業員一同
〃	佐藤勝海外二名
日產化學工業株式會社	遠賀礦業所
全遠賀礦業所	遠賀興遊會
〃	交親會
〃大日本國防婦人會	遠賀礦業所分會
鹿兒島市	三州看護婦會々員一同
長崎大浦	山口愛次郎
鹿兒島市	三州自動車合資會社
宮崎縣	萩崎爲行
肝屬郡	鹿屋町驛前通會
肝屬郡	橋本喜八
北海道	北海道廳長官
東京	公爵島津忠義
鹿兒島市	縣立鹿兒島中學校生徒一同

鹿兒島市	伊地知四郎
〃	鹿兒島市廳員一同
〃	筑後京製紙株式會社
鹿兒島市	鹿兒島高等農林學校職員生徒一同
西田町	鹿兒島放送局全局員
熊毛郡	セブスデーアドベンチユート
大分市	鹿兒島教會婦人會
	種子島稅務署員一同
佐世保	上野武夫
鹿兒島市	片倉製糸紡績株式會社
肝屬郡	大分製糸所鹿兒島縣出身者一同
長崎市	田中信義
岡山縣	大日本紡績株式會社
	岡山縣金光教本部
	金光教九州教會長會
	同西鹿兒島教會所
	金光教第十三教區
	國民精神總動員委員部
	西部防衛司令官松井命
	株式會社朝日新聞社
大阪市	

鹿兒島	西海臺灣區商業學校長
〃	國語漢文科講議會出席者一同
〃	鹿兒島合同運送株式會社
東京	全社員一同
大分縣	鹿兒島郵便局員一同
薩摩郡	西鄉從道
姶良郡	木下トモエ
	縣立宮之城農蠶學校生徒一同
大阪	栗野町上場小學校職員兒童
鹿兒島縣	鹿兒島市料理屋組合
〃	株式會社寺田紡績工廠寄宿舍生一同
〃	縣立加世田女學校生徒
	垂水實科高等女學校職員生徒
	四蓮宗宗務院
	鹿屋古物商組合
	古川千代吉
	川內町洋品雜貨粧品組合
	代表者奥村義雄外四〇名
	川內土木建築請負組合
	自動車營業組合川內支部
山形縣	山形縣知事

長野縣　大日本法令出版株式會社
縣立阿久根高等女學校職員生徒一同
阿久根實業學校職員生徒一同
加治木稅務署職員一同
高江村役場吏員
福岡縣　貨田政秀
熊本縣　熊本三洲人會代表　家村末熊
福井市　下中野榮藏
熊本營林局高等官一同
仝局職員一同
八幡青果株式會社
岐阜縣　笹村一作
東京市　右同代表山縣淺治
東海紡績株式會社
始良郡　前田芳江
山田誠一郎
國見琢常小學校職員兒童
鹿兒島縣關係職員
鹿兒島市內鮮共助會

佐賀縣　岩屋具島炭礦在礦鹿兒島縣出身一同
東京市　田代琢常高等小學校職員一同
農林省獸疫調査所九州支部歸江會
陸軍軍醫學校第六病棟戰傷患者一同
鹿兒島市交通課電車自動車工場從業員
代表　共濟會長　田上精市
大阪市　鹿兒島營業署員一同
大日本紡績株式會社津守工場職員並從業員一同
富山縣　富山縣射水郡淺井村長　藏生正藏
始良郡　國分町商工會
佐世保海軍工廠造船部機械工場員
小藤一雄
京都　本派本願寺
鹿兒島縣・宮崎縣本願寺派寺院
岩手縣　岩手縣知事
大阪　北尾昌二
〃　浦上弘
〃　中西

天理教聯合會
官幣大社鹿兒島神宮職員一同
市來町女子青年團
日置郡　大藥與四郎
荒木利賢
每田利國
古垣十五
草原盛之助
山口宗雄
川野榮吉
黑木健治
星原トメ
成相泰藏
笠野榮吉
曾山太次郎
野間賚盛
下笠精藏
岡村重吉
寺尾順藏

大迫矢一
山内十吉
九田靜吉
平地吉二
本田親義
川野新吉
船倉エダ
久留米賊助
脇田チホ
仙田明雄
田中豐丸
末吉惠助
內山吉宇
田中アサ
正留伊助
宮脇一宇
丸山泰藏
平田吉藏
田彌吉

	内匠屋七太	
	山下龜次郎	
	西牟田直四郎	
	大西常吉	
	田中喜一	
	柳田彦	
	角清次	
	内匠屋新吉	
	二之宮慶記	
	小正祐吉	
	山口タメ	
	枦元庄吉	
日置郡日置	柳田歐吉	
	賞雅哲淳	
	原口万之進	
	久米六郎	
	橋口武熊	
	田中スマ	
	枇榔直吉	
	川畑仁四郎	
	野口末吉	
	山口喜八郎	
	永井國男	
	山口博	
	武征藏	
〃	日置村役場吏員	
姶良	小村尋常高等小學校	
日置郡	永吉村役場吏員一同	
〃	吉利村役場吏員一同	
宮崎縣延岡市	旭ベンベルク絹絲株式會社延岡工場	
	レーヨン工場女子寄宿舍生一同	
福岡縣	島益治郎	
姶良郡	蒲生高等實業女學校職員生徒	
囎唹郡市成村	上、下部落員一同	
〃	辰喰、久木野、窓園、浮牟田、佛山、朝倉、八重山、柏木、谷田部落員一同	
	市成尋高等小學校職員兒童一同	
	市成村役場吏員一同	

	市成校區婦人會員一同	
	市成村青年團員一同	
	市成村女子青年團員一同	
	無名	
大島郡	鹿兒島市産婆會	
鹿兒島市	高尾野尋常高等小學校職員兒童	
出水郡	入野軍曹外二十一名	
梨和隊鹿兒島縣人	町立實科高等女學校職員生徒	
熊毛郡	一農夫	
山口縣佐波郡	國分町各種婦人團体	
姶良郡	東市來町役場吏員一同	
日置郡	九州學院野球部選手	
朝鮮全羅南道	朝鮮全羅南道岡城郡在住三州人代表	
	加鹽實雄	
鹿兒島市	日本メソヂスト鹿兒島教會日曜學校	
	生徒一同	
囎唹郡	囎唹郡松山村	
〃	仝村役場吏員	
鹿兒島市	金光教鹿兒島教會所	
	金光教伊集院布教所	
	伊瀬知義重	
	伊瀬地次雄	
	横川村役場	
	横川村	
	牧園村	
	吉松村代表	
	税務署員一同	
	濱田町	
	下東郷村役場員一同	
	郡山村	
	伊作町吏員一同	
	伊作町婦人會	
	伊作町	
	伊集院町	
	鹿兒島高等商業學校	
	鹿兒島縣神職會川邊郡支部	
	鹿兒島縣立奄美高等女學校生徒一同	
	大島郡嘉鐵尋常高等小學校職員兒童	

日置郡伊集院町		
北京鐵路局		
平安北道北鎭		
姶良郡		
〃		
〃		
〃		
囎唹郡岩川		
島根縣		
薩摩郡		
日置郡		
〃		
〃		
〃		

鹿兒島市		大島郡東城尋常高等小學校職員兒童
		別格官幣社 照國神社 職員
		鹿兒島集成工業學校 生徒一同
姶良郡		第六師團下各部隊
	國分町	愛國、國防、鹿兒島市婦人會代表
		鹿兒島市長
伊佐郡大口町		鋼生株式會社大口鑛業所
熊毛郡		上屋久村役場吏員一同
		北支派遣〇〇部隊〇〇部隊〇〇部隊
		鈴木隊 鹿兒島出身者一同
山口縣佐波郡右田村		一農夫
延岡市中川原町中ノ瀨		上野輝子
		福井縣知事
岸和田市別所町		鹿兒島縣立川內高等女學校
		高黑佐太郎
大島郡		鹿兒島稅關支署職員中五名
		西方村立各小學校職員兒童
〃		青年學校職員生徒
大島郡		與論村邦間尋常小學校職員兒童
出水郡	阿久根町	阿久根町役場吏員一同
〃		阿久根町各學校
〃		阿久根町女子青年團
福岡縣企救郡中谷村		門司臨時水道擴張部
奈良縣北葛城郡新庄町		近藤良心
靜岡縣駿東郡玉穗校		小野義則
日置郡	永吉村	
薩摩郡	川內町	
		中央氣象臺鹿兒島測候所職員一同
薩摩郡		山口縣知事
姶良郡		上薗村
出水郡		幸田尋常小學校職員兒童
姶良郡		高尾野町
	栗野町	栗野町長谷區
〃		老谷區
〃		水窪區
〃		末永區
〃		恒次區
〃		川南區
〃		國見區
〃		上北方區
〃		下北方區
〃		田尾野區
〃		稻葉町區
日置郡	市來町	湊內門部落
	湊迫部落	
		大里川南上部落
		大里北上部落
		川上部落
		婦人會川上支部
市來町		青年團川上分團
市來町役場吏員一同		
湊町更生會		
〃		大里川南下部落更生會
〃		大里川北下部落更生會
〃		東太美尋常高等小學校
富山縣礪波郡		郡山村役場吏員一同
日置郡		新田神社職員一同
薩摩郡		東長島村役場吏員一同
出水郡		西志布志村
〃		田布施村役場員一同
囎唹郡	知覽町	
日置郡	厚地區	
川邊郡	永里區	
〃	瀨世區	
〃	西元區	
〃	東別府區	
〃	龜屋區	
〃	南別府區	
〃		知覽町役場員一同
〃		知覽町農會一同

衛生課	要源七	姶良郡
道路課	菊地愛道	日置郡
防空課	享保正	囎唹郡
職業課	吉見登	東京市
〃	尾上幸友	大阪府知事
衛生課	石曜嵐雄	朝鮮社會事業協會
議事課	龜井藤恒	香川縣社會事業協會
情報課	川畑政雄	八幡製鐵所職員錦江會
〃	小島等	直方市南州會員一同
特高課	長友尙一	大口町各區
交通課	宮脇猛繁	末吉町
〃	大竹英爾	須古小學校職員兒童
消防課	久保盛藏	高尾野村役場員一同
刑事課	小濱豐次	野方村
警務課	遠矢直弘	産業組合水產課 寺園勝志
警務課	田尻賴吉	秘書課 安山實
水產課	福元清輝	外事課 松尾楸
監察課	重山安慶	建築課 松村弘之
農務課	深川純男	特高課 槐島定介

農務課	藤岡藤吉
社會教育課	小原一夫
河港課	尾上千秋
郡市計劃課	椋田銀藏
社會教育課	林茂悯
特高課	須納瀨淳
商工第一課	山田安納
特高課	吐師國夫
經濟保安課	前田南善
官房	河野嬌
衞生課	有川藤吉郎
〃	兒玉藤吉
道路課	石原民
商工課	上床定夫
河港課	鳥丸忠志
〃	福壽十喜
社寺兵事課	平野正行
商工第一課	濱田正充
水產課	上窪敏夫

會計課	藤原直太郎
監察課	德永純芳
河港課	矢野忠一
久留米各宗報國會假事務所	
沖繩縣立第二高等女學校	
第二三回沖繩縣市稅務協議會	
住友忠隈礦業所	
山川町	
蒲生町	
敷根村	
敷根村工場吏員一同	
西櫻島村	
櫻峯尋常高等小學校	
榮濱郡白縫村眞苦第一區	
全郡全村白浦保呂第二區	
白浦邊計乳第三區	
白浦第四區	
榮濱郡白縫村白浦第五區	
第六區	

福岡縣嘉穗郡穗波村	
揖宿郡	
姶良郡	
〃	
鹿兒島郡	
鹿兒島郡	
樺太	
〃	

大阪府	
〃	
〃	
〃	
〃	
〃	
〃	

〃　〃　第七區
〃　〃　眞鍋西第八區
〃　〃　第九區
〃　第一〇區　加世田町
〃　川邊郡　加世田町役場吏員
〃　日置郡　永利村
〃　〃　吉利村役場吏員
〃　鹿兒島　運輸事務所管內職員一同
〃　薩摩郡　上東鄉村
〃　大島郡　早町村
〃　大島郡　志戸桶尋常小學校職員兒童一同
〃　大島郡　小野津尋常小學校職員兒童一同
〃　薩摩郡　上東鄉村
〃　〃　上東鄉村役場吏員一同
〃　〃　上東鄉村立各學校職員一同
〃　〃　鶴田村
〃　〃　紫尾區青年支團
〃　〃　鶴田區青年支團

〃　〃　柏原一區青年支團
〃　〃　日本水產鶴田發電所
〃　〃　鶴田村役場吏員一同
〃　鹿兒島　地方裁判廻同檢事局管內職員一同
〃　薩摩郡　寄田尋常高等小學校職員兒童一同
旭ベンルベグレーヨン工場
私立岡富青年學校男子部
姶良郡　隼人町
日置郡　下伊集院村
〃　鹿兒島郡　萬世町
川邊郡　大阪朝鮮人
〃　大阪　天滿織物株式會社
〃　朝鮮　黃海道鎭二浦三州會長　益滿行豐
〃　薩摩郡　求名村
〃　〃　高城村
〃　囎唹郡　大崎町
〃　〃　大崎町役場吏員
〃　囎唹郡　大崎小學校職員兒童一同
〃　〃　持留小學校職員兒童一同
〃　〃　菱田小學校職員一同
〃　〃　大崎青年學校職員生徒一同

姶良郡　重富村
島根縣　那賀郡二宮村長　森脇忠市
揖宿郡　喜入村
田水郡　田水町
〃　田水町國防婦人會
〃　田水町役場吏員
田水郡　丸塚尋常小學校職員兒童一同
薩摩郡　金光教田水教會
〃　大村役場吏員一同
囎唹郡　末吉驛員一同
姶良郡　橫川尋常高等小學校兒童職員
大島郡　押角尋常高等小學校兒童職員
〃　押角青年學校職員生徒一同
姶良郡　東國分村
日置郡　東市來町各區
日置郡東市來町　上床廣
〃　補元エン
鹿兒島地方專賣局長

鹿兒島郡　東櫻島村
鹿兒島郡　東櫻島青年團
〃　婦人會
〃　女子青年團
島根縣　能義郡井尻村長
樺太　榮濱郡榮濱村
富山縣　射水郡伏木町伏木尋常高等小學校
〃　伏木商業學校
〃　射水郡古府尋常小學校
〃　伏木町新島代表
熊毛郡　中種子村青年學校職員生徒一同
大島郡　鐵西村
大島郡　大勝小學校兒童職員一同
田水郡　三笠村
川邊郡　笠砂村
薩摩郡　江石尋常高等小學校職員一同
揖宿郡　農會職員一同
田水郡　野田町
伊佐郡　羽月村

〃　羽月村婦人會
〃　羽月青年團
〃　羽月女子青年團
〃　羽月方面委員會
〃　羽月衞生組合
〃　羽月村役場員一同
伊佐郡　羽月村農會職員
神戸市下山手通　三州會代表兒玉辰二
薩摩郡　宮之城町柊野區
〃　平川區
〃　虎居區
〃　屋地區
〃　新木區
〃　時吉區
〃　湯田區
〃　宮之城町役場員一同
揖宿郡　今和泉村
鹿兒島郡　伊敷村
福岡縣嘉穗郡　大隈町牛隈久恒鑛業株式會社

漆生炭坑事務所鹿兒島縣人代表
岡山市　門田鐘紡岡山絹糸工場
鹿兒島出身一同
薩摩郡　入來村
日置郡　串木野町
日置郡串木野村　田尻森吉
〃　藤井藤之助
〃　萬福直清
樺太敷香郡　泊岸村長
和歌山市傳法橋　和歌山紡織株式會社
本社工場從業員一同
和歌山紡織株式會社
紀ノ川工場從業員一同
〃　簑島工場從業員一同
揖宿郡　指宿町
伊佐郡　羽月村
大島郡　宇檢村
〃　名瀬町
沖繩縣　羽地村

大阪市住吉區　大日本紡績株式會社
大島郡　今里尋常高等小學校職員兒童
〃　今里青年學校分教場職員生徒
姶良郡　福山町
熊毛郡　上屋久村
福岡縣鞍手郡劍村　三菱筑豐鑛業所新入炭坑第七坑
熊毛郡　下屋久村役場員一同
〃　下屋久村產業組合職員
熊毛郡　栗生尋常高等小學校兒童
〃　八幡尋常高等小學校職員兒童
〃　神山尋常高等小學校兒童
〃　神山青年學校生徒
〃　栗穗尋常高等小學校兒童
〃　栗穗青年學校生徒
熊毛郡　下屋久村
薩摩郡　佐志村
薩摩郡　佐志村役場員一同
厚生省
囎唹郡　月野尋常高等小學校職員兒童

〃　桑之迫尋常小學校職員兒童
〃　恒吉村立大谷尋常小學校職員兒童
伊佐郡　羽月村
樺太大泊郡　深海村長
大島郡　知名尋常高等小學校職員兒童
島根縣　美濃郡中西村長
大阪市西淀川區野田町　私立惠美須屋青年學校生徒
鹿兒島縣師範學校生徒一同
囎唹郡　深川尋常高等小學校兒童
熊毛郡　上屋久村一湊區
伊佐郡　山野村役場員中
伊佐郡　山野村布計調生鑛業所員中
伊佐郡山野村　上馬場區一同
〃　下馬場區一同
〃　町區一同
〃　揚村區一同
〃　下村區一同
〃　井立田區一同
〃　村尾ノ上區一同

伊佐郡山野村	石井區一同	
〃	布計區一同	
〃	小木原區一同	
〃	濁邊區一同	
〃	平出水區一同	
〃	小川内區一同	
熊本縣球磨郡	久米村長	
川邊郡	川邊町區一同	
大島郡天城村	肄久尋常高等小學校職員兒童	
	鹿兒島縣立第二鹿兒島中學校	
神刀館	補習科生徒	
揖宿郡	榎木靏州	
大島郡	頴娃村役場吏員	
姶良郡	十島村黑島區一同	
薩摩郡	清水村	
〃	樋脇村役場員	
〃	樋脇村木炭改良組合	
樺太	眞岡町一同	

樺太	豐原郡川上尋常高等小學校職員
〃	大泊支廳拔豐榮第一小學校職員兒童
〃	河西小學校職員一同
〃	留多加町河東字北平野
〃	河西字南小原一同
〃	西留多加字西留多加面
囑託郡	東京府知事
囑託郡	志布志町立青年學校職員生徒
薩摩郡	末吉町役場員一同
	高江村
奈良縣	岡山縣知事
鹿兒島郡	高田町大日本紡績高田工場有志
	谷山町
川邊郡	在廣肝屬郡人會代表 小野田祐介
〃	勝目村
大島郡	勝目村土噴婦人會
大島郡	伊仙村
滋賀縣	東天城村青年學校職員生徒
	彦根市近江絹糸紡績株式會社

鹿兒島縣	西櫻島村青年學校職員生徒
大阪市東區北久太郎町	岸和田紡績株式會社
奏夫	三州人會長 佐土橋森吉
大阪市東區今橋	日本レイヨン株式會社
川邊郡	勝目村役場吏員一同
佐賀縣鳥栖町	片倉製糸紡績株式會社
兵庫縣加佐郡高砂町	鐘淵株式會社高砂人絹工場從業員
神戸市林田區御崎町	鐘淵紡績株式會社
福岡縣	八幡市日本製鐵株式會社八幡製鐵所
大阪市	東區南久太郎町日本紡績株式會社
	靜岡縣知事
富山縣	上新川郡堀川町長
川邊郡	枕崎町
鹿兒島郡	吉田村
樺太	多好郡惠須取町泊居支廳鵜城出張所
大島郡	灣尋常高等小學校職員、兒童
佐世保	海軍病院第六號病室
滿洲國	昭和青少年指導者日本派遣團
台北洲	台北市幸町 二木庄右衞門

東京市	芝區田村町三州倶樂部
鹿兒島	縣會議員一同
樺太	榮濱郡落合町役場
薩摩郡	黑木村
〃	黑木村役場員一同
薩摩郡	黑木村婦人會
名古屋市	東區宮町紡糸會社
	松坂木綿株式會社
大阪府	泉南郡青木町岸和田紡績株式會社
	春木工場鹿兒島出身女工有志
大阪市	北區玉江町福島紡績株式會社
大阪市	西淀川區傳法町帝國製麻株式會社
	大阪製糸工場
宮崎縣	北諸縣郡自治協會
大島郡	知名村
宮崎縣	都城市長
	九州沖繩各縣市會議員一同
川邊郡	西南方村
佐賀縣	佐賀東川副尋常高等小學校兒童

大分市　日本人造羊毛株式會社大分工場

大阪市住吉區王子町　鮫島正亮
〃　ライト商會　遠竹千吉
大阪市東淀川區淡路町　永田正義
大阪市天王寺町島ケ辻町　黒松ナル
京都市伏見區深草大龜谷寺裏町　田中常憲
大阪市廳水道部　河口信雄
京都市伏見區桃山町　迫田壯之助
大阪府南河內郡野田村　横山竹五郎
大阪市北區宗貝町　永田吉德
大阪市北區天神橋筋　內宮光義
〃　東區鶴橋町　豐島正純
〃　伊勢町　久保清富
〃　北區金屋町　田中省吾
〃　東淀川區本莊川崎町　尾辻保
〃　北區都島本通　東條義治
〃　東淀川區津屋中通　伊牟田泰久
大阪府三島郡吹田町　森立名
神戸市湊東區中川通　若松彌太郎

大島市東區東雲町　重信藤彦
大阪府泉北郡信太村　西川大憲特許事務所
京都市伏島區深川町　高島友武
大阪市東淀川區元今里北通　龜田晉
〃　此原島警察署　林勇男
大阪府廳社寺兵事課　平部正行
大阪市住吉區西合川町　林尙武
〃　天王寺區上汐町　伊地知矢助
〃　南河內郡北八下村　川添りやう
〃　住吉區阿部野筋　平野清
大阪府中河內郡久寶寺長　阿久根けい子
大阪市高津中學校　川路嘉武
大阪市旭區直江町　武岡住明
大阪府布施市小坂　壽亮
大阪市東區森ノ宮西町　上田實光
大阪府豐能郡池田町　飯山秀吉
大阪市住吉區松中通　西虎彥
大阪市廳水道課　永谷忠雄
大阪府豐中市柴原　川上四郎

兵庫縣西宮市今津綱引町　寺園武志
大阪市住吉區天王寺町　石塚春海
〃堂島濱通　天辰千里
大阪府吹田町二山池　取違春香
兵庫縣西宮市今津浦風　白尾清次
大阪市北區王子製紙工場　吉井襄
〃　大正區泉尾中通　海江田敏吉
〃　港區南安治川通　森立石
〃　外曾根、原田　川畑竹馬
〃　西淀川區武田商店　平友恒
兵庫縣武庫郡東山村　鈴木仲輔
大阪市旭區森小路町　篠原良之助
〃　南區南綿屋町　高味才二
大阪府中河內郡繩手村　東鄉重厚
京都市伏見區桃山町　永吉實辰
大阪府堺市北新町　國田馨
大阪市北區都島中通　中尾廣
京都市右京區谷口梅津間町　堀之內新藏
大阪市天王寺區寺田町　鎌田政寬

京都市東洞院　今井泰藏
大阪市北區眞砂町　春治吉
〃西成區津守町　中原袈裟吉
大阪府中河內郡久寶寺町　伊地知堅盤
大阪市東區道修町　木場榮熊
大阪府豐能郡池田町　木場貞光
兵庫縣川邊郡川西町　篠原八二
大阪市旭區支淵町　永山一郎
〃　東淀川區豐里篠原町　池邊象義
〃　住吉區大阪高校官舍　壹岐桃松
〃　北區都島北通　小田水種春
〃　北區都島北通　本田千春
〃　天王寺區大通　山崎貞夫
奈良市北門町　床次治二
大阪市北花區上福島北　日高熊次郎
神戸市神戸區下山手通　生駒純
兵庫縣武庫郡芦屋樋口新田　內野淺次郎
大阪市北區堂島灣通　木場悅熊
〃　山口秀盛

〃　東區北濱住友銀行　小川森秀
大阪府西宮市常盤町　今北俊比古
大阪市東淀川區豐里篠原町　內山武夫
〃　三津屋町　今村貞秋
兵庫縣武庫郡住吉村　小森慶助
大阪市東區住友銀行　竹迫常榮
岸和田市大平町　木場穗積
大阪市岡島郡千里村　神園庄太郎
西宮市外甲子園　橫山藤吉
兵庫縣川邊郡伊丹町　野田昌成
大阪市住吉區松崎町　鈴木愉之助
京都市上京區小山東花池町　城田淳
大阪市西區土佐堀通　岡爲輔
大阪市此花區下島町　折田裕太郎
大阪市南區松山町　藤崎豐治
大阪市北區京吳町　永田吉治
神戶市須磨區大手町　有川愛治
奈良市雜司町　新納忠之介
大阪府豐能郡池田町　上野次郎男

兵庫縣武庫郡鳴尾村　志風喜美
尼ヶ崎市抗瀨中深　神田肇
大阪市浪速區立菊町　上原正成
兵庫縣川邊郡多田村　山之內貴
大阪市住吉區阿部野筋　上村政吉
大阪泉北郡高名町　石神八重
大阪市西成區千本通　岩重喜熊
京都市北京區山鳴縱本町　平田元吉
豐中市小松通　堀秀
大阪市西區立賣堀南區　川田榮泰
西宮市津門　四元精
兵庫縣武庫郡寶塚　有村衣太郎
大阪市住吉區鷹合町　榊善藏
大阪市港區中元町　高木榮
豐中市春日通　佐藤太一郎
大阪府立市岡中學校　椙井孝
神戶區裁判所　山下直次
大阪市住吉區山阪町　青山直
大阪市住吉區阿部野筋　上床義隆

京都市山科御陵　瀧野孫二
大阪市住吉區阿部野筋　八木繁志
大阪府南河內郡野田町　橫山竹五郎
大阪市西區北堀江御池通　松崎香住
大阪市東區北久寶寺町　松村軍次
大阪市西區江戶堀下通　安東長義
大阪市住吉區阪南町　篠原正雄
京都市上京區小山板倉町　池松時和
京都市左京區聖護院中町　大野盛郁
兵庫縣武庫郡住吉村　木村馴吉
大阪市天王寺區夕陽丘　加治屋哲
大阪市西區西長堀南通　中村公男
兵庫縣御敕町郡家　中川路貞治
堺市綾之町　富山要宜
大阪市東區丸町　新納薰
豐中市新免　水間靜江
大阪市東淀川區本莊東通　紀乃作益
大阪府泉南郡淡輔　田中豐輔
兵庫縣御影町　唉花一二三

大阪市此花區玉川町　長泰情太郎
阪急沿線芦尾　重信政英
大阪府豐能郡箕面村　天辰長文
大阪市住吉區阿部野筋　八木盛二
大阪市天正寺區上汐町　有川廣
兵庫縣武庫郡精通村　木本主衛門
神戶市葺合區上筒井通　前田忠
大阪市西區立賣堀北通　鮫島正亮
大阪市南區東清水町　內田政貴
大阪市西淀川區野田町　原田周造
大阪市西區花園町　松原直次
大阪市此花區江成町　釘宮常二
大阪市西淀川區御幣島町　江崎利一
大阪市西淀川區　古藤仙藏
〃　グリコ株式會社從業員有志
大阪住吉區王子町　城野雄介
大阪府泉南堀具塚町　昇清元
大阪市住吉區共立通　神園市太郎
京都市左京區松ヶ崎　種子島時彥

奈良市水門町　床次德二
大阪市天王寺區茶臼山　田中堅藏
大阪市立市岡中學校　職員有志
神戸市葺合區南通　內藤榮熊
大阪府泉北郡高石町　池田利則
豐中市橘通　樋渡龜次郎
大阪市住吉區阪南町　椙松源一
大阪市住吉區天王寺町　鹿島浩
布施市日新商業學校　小林幸男
布施市三ノ瀨奉公會代表　鹿島浩
神戸地方裁判所　鹿島重夫
大阪府北河內郡守　若松龜藏
京都市左京區山端森本町　平田元吉
大阪市東淀川區豐里管原　立元正治
大阪市北區堂島　佐多愛彥
大阪府三島郡千里村　山下昇
宇治山內市浦田町　平田貫一
豐中市社免　奧原成美
大阪市比花區春山町　高木平

大阪府泉北郡濱寺　大內山金之進
大阪府中河內郡八尾町　島田文藏
名古屋市西區下長者町　東海紡績株式會社
京都市伏見町　日本絹織株式會伏見工場
嶋嗽郡　西志布志村
島根縣美濃郡種村　女子青年團
薩摩郡高江村　青年學校
姶良郡　隼人
囎嗽郡　岩川町
出水郡　大川內村
〃　青松縣
薩摩郡　若松龜藏
〃　山崎村
〃　佐賀縣
大阪市東淀川區　長崎縣
薩摩郡　明正紡績株式會社女子寄宿舍
囎嗽郡　藺牟田村
〃　恒吉村
〃　新湯縣
大牟田市　三井鑛業株式會社三池鑛業所

伊佐郡　西太良村
鹿兒島市易居町　松元直吉
澎湖島　三州人會有志
〃　沖繩縣
樺太廳泊居支廳　肥後龍夫
大阪市住吉區　小島正輔
鐵道省下關　改良事務所有志
大島郡阿木名　尋常高等小學校職員兒童
〃　天城村立青年學校生徒職員
薩摩郡　永利村
出水郡　米ノ津町
〃　〃郵便局員一同
〃　〃役場吏員一同
伊佐郡　本城村
台中州北斗郡　北斗赤十字團　劉金雄
三重縣富洲原町　平田紡績株式會社富洲原工場
熊毛郡　增田尋常小學校兒童職員
和歌山縣　伊佐郡橋本尋常高等小學校
樺太廳泊居支廳　久春內村
〃　若松部隊竹下部隊
大阪市西淀川區　協和紡績株式會社
〃　本淀川區　明正紡績株式會社
〃　北區　內外綿株式會社
〃　西淀川區　小津武林起業株式會社
〃　東區　帝國製糸株式會社
大阪府南河內郡　柏原紡績株式會社
堺市七道西町　大阪織物株式會社
大阪市東區　錦華紡績株式會社
岩和田市南町　泉州織物株式會社
大阪市東區　株式會社寺田紡績工廠
岸和田市北町　佐野紡績株式會社
大阪府泉南郡　貝塚和泉織物株式會社
大阪市東區　大阪紡績株式會社
〃　西區　和歌山紡績株式會社
大阪府泉南郡　貝塚紡績株式會社
大阪市東區　吉見紡績株式會社
〃　昭利紡績株式會社

昭光紡績株式會社
〃
內海紡績株式會社
〃
日高紡績株式會社
京都市中京區
辻紡績株式會社
大阪市東區
琴浦紡績株式會社
大阪市西區
倉敷紡績株式會社
〃　東區
出雲製織株式會社
〃
明治紡績株式會社
大阪市東區
國光紡績株式會社
〃
近江帆布株式會社
大阪市東區
若林製糸紡績株式會社
滋賀縣犬上郡
森林紡績株式會社
一宮市東町
愛知織物株式會社
名古屋市西區
內外紡績株式會社
〃
大東防績株式會社
大阪市東區
日東紡績株式會社
〃
德島紡績株式會社
大阪市北區
松太綿布株式會社
〃　東區
第三十六旅團司令部援各部隊
姶良郡　霧島村
神戸市葺合區　株式會社神戸製綱所
日置郡串木野町　役場吏員
大分縣　東國東郡奈狩江村長
出水郡三笠村　石崎武夫
姶良郡　日當山村
中支派遣　稻葉部隊倉原部隊
棒太麗泊居支廳　鵜城出張所長
若松部隊　山口縣知事
福島縣　將兵一同
嘉穗郡稻築村
門司市會議員
郡是製糸株式會社熊本工場
熊本市池田町　大峰八男
鹿兒島市冷水町　湊田町長
福岡縣田川郡　福田村長
〃　朝倉郡
大阪市北河內郡　東亞高級繼手製造所
別府市會議員
中支派遣軍本部隊　市川豐見

サリナス三州同志會代表　山口伸八
大島郡實久村
東洋紡績株式會社
大阪市北區
富士瓦斯紡績株式會社
大阪市　中尾正義外
滿洲國瓦房店三州人會長　濱田直吉
大阪市此花區　株式會社大阪鐵工所
熊毛郡　上屋久村口永良部島
北支派遣平田部隊　吉原實
薩摩郡里村
〃　下甑村
福岡縣知事
山口縣知事
堺港修築工營所
都城市會議員
和泊村農會
旭ベンベルク絹糸株式會社
厚生省
長崎縣知事
大阪府土木部
大島郡
宮崎縣延岡市
大阪市北區
台中洲北斗郡
福岡縣三池郡
熊本縣天草郡
京都本山妙法院
京都新京橋通
稻葉部隊藤村部
松浦部隊池田隊
丸山八部隊福永隊
上野部隊東部
槌田部隊稻穗隊
在濠國佛加州エンセナタ
在比律賓群島
橫濱市中區吉田町
在北米加奈多
帝國人造絹糸株式會社
守田部貴
高田村長
本村
梅谷奬德財團
天狗流本院報德會
熊本縣知事
將兵一同
將兵一同
瀨川部隊海老原隊
東正一
堀內照志
家村義德
鹿兒島縣人會
ダバオシ州會
橫濱三州人會
鹿兒島縣人會
台灣總督府
福岡縣田川郡添田町

奉天上北門　奉天三州會長
在北米加洲サンルイスオビスポ郡　林　十
アロヨグンテ代表　愛知縣
福岡縣若松市　社團法人筑豐石炭鑛業會社
大分縣北海部郡日本鑛業株式會社
佐賀關製鍊所
富山縣上新川郡福澤村長　石田孫作
南加鹿兒島縣人會長　山下智實
在シヤトル市　鹿兒島縣人會
台灣台中州大甲郡守　横山竹男
高雄州旗山郡守　米山耕造
石川縣知事
日置郡上伊集院村

福岡縣朝倉郡三奈木村　町村長會
福岡縣浮羽郡　在ダバオ三州會長　曲田清志
第二百一野戰局　堀内照志
第二百三野戰局　花田吉春
台灣風林庄長

備考

1、本名簿ハ受付順ニ依ル從テ次第不同ノ觀アリ。
2、縣市町村其他公私設團体ニ於テ取經ラレタルモノハ醵出人名簿ヲ添付ノモノモ各本人別ニ記サス取扱者若クハ代表者タケ表記セリ。
3、數回ニ亘リ送金アリタル分ニ對シテハ毎回之ヲ表記セス

昭和十五年一月十　日印刷
昭和十五年一月十五日發行　（非賣品）

鹿　兒　島　縣
印刷者　鹽　榮・
鹿兒島市新照院町一番地
印刷所　鹿兒島縣教育會印刷部
鹿兒島市山下町一番地

770
161